

## 令和8年2月分 清水税関支署管内 貿易概況（速報）の要旨

### 1. 清水港

輸出総額は1,867億円（対前年同月比3.3%の増加、比率ベース：5ヵ月連続の増加）、輸入総額は1,182億円（同21.7%の増加、2ヵ月ぶりの増加）であった。差引額は685億円（同18.0%の減少）の輸出超過となった。

品目別では、輸出は「原動機」、「科学光学機器」などは減少したものの、「写真用・映画用材料」、「自動車の部分品」、「二輪自動車類」などが増加した。輸入は「その他の採油用種子」、「パルプ」などは減少したものの、「魚介類及び同調製品」、「無機化合物」、「事務用機器」などが増加した。

地域別では、輸出は「EU」が増加、「アメリカ」、「アジア」は減少した。輸入は「アジア」、「EU」が増加、「アメリカ」は減少した。

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額（▲は輸入超過）	伸率
清水港	1,867億円	+3.3%	1,182億円	+21.7%	685億円	▲18.0%
	5ヵ月連続の増加		2ヵ月ぶりの増加			

		概況品名	金額	伸率			概況品名	金額	伸率
輸出	増加品目	(1) 写真用・映画用材料	54億円	2.3倍	輸入	増加品目	(1) 魚介類及び同調製品	278億円	+79.0%
		(2) 自動車の部分品	164億円	+21.4%			(2) 無機化合物	22億円	16倍
		(3) 二輪自動車類	234億円	+12.7%			(3) 事務用機器	18億円	2.9倍
	減少品目	(1) 原動機	213億円	▲21.2%		減少品目	(1) その他の採油用種子	—	全減
		(2) 科学光学機器	66億円	▲38.2%			(2) パルプ	33億円	▲33.6%
		(3) 加熱用・冷却用機器	37億円	▲33.7%			(3) 有機化合物	38億円	▲14.5%
主要地域増減	EUが増加、アメリカ、アジアは減少				主要地域増減	アジア、EUが増加、アメリカは減少			

（参考）ドルレートは、155.65円（前年同月比0.7%、1.04円の円安）であった。

（注）月間ドルレートは、税関長が公示する相場を当該相場が適用された日数で加重平均したもの。

注）本資料中の「伸率」及び「増減表記」は、前年同期との比較による。

## 2. 田子の浦港

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額（▲は輸入超過）	伸率
田子の浦港	9億円	▲5.9%	12億円	▲30.7%	▲3億円	▲62.7%
	5ヵ月連続の減少		4ヵ月ぶりの減少			

		概況品名	金額	伸率			概況品名	金額	伸率
輸出	増加品目	(1) 精油・香料及び化粧品類	1億円	4.1倍	輸入	増加品目	(1) とうもろこし	8億円	+78.0%
		(2) 写真用・映画用材料	5億円	+13.6%			(2) 魚介類及び同調製品	53百万円	4.1倍
		(3) 織物用糸及び繊維製品	17百万円	9.0倍			(3) バッグ類	9百万円	全増
	減少品目	(1) ポンプ及び遠心分離機	14百万円	▲86.9%		減少品目	(1) 石炭	—	全減
		(2) 電気計測機器	1百万円	▲99.2%			(2) パルプ	3億円	▲27.4%
		(3) プラスチック	5百万円	▲86.7%			(3) 非金属鉱物製品	—	全減
主要地域増減	アジア、アメリカ、EUが減少			主要地域増減	アメリカ、EUが減少、アジアは増加				

## 3. 御前崎港

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額（▲は輸入超過）	伸率
御前崎港	476億円	+24.7%	56億円	2.8倍	419億円	+15.9%
	6ヵ月連続の増加		15ヵ月連続の増加			

		概況品名	金額	伸率			概況品名	金額	伸率
輸出	増加品目	(1) 自動車	249億円	+16.1%	輸入	増加品目	(1) 自動車	25億円	全増
		(2) 自動車の部分品	82億円	+39.3%			(2) 鉄鋼	10億円	2.8倍
		(3) 無機化合物	21億円	2.1倍			(3) 木材及びコルク	7億円	2.0倍
	減少品目	(1) 二輪自動車類	18億円	▲7.4%		減少品目	(1) 調製石油添加剤	5億円	▲13.7%
		(2) 電池	92百万円	▲34.3%			(2) 無機化合物	—	全減
		(3) 重電機器	14百万円	▲53.0%			(3) 加工油脂及びびろう	—	全減
主要地域増減	アジア、EUが増加、アメリカは減少			主要地域増減	アジア、EUが増加				

## 4. 静岡空港

輸出入実績なし